

# 週報

2007年 3月 18日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸

### 今朝の聖書から 『ルカによる福音書』 9:28

～36が開かれ、読まれます。今朝も御言葉に聞きましょう。  
“祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。(29節)”という奇跡の出来事が中心になっています。奇跡についてですが、先に開いた箇所を思い出しましょう。奇跡や不思議は私たちの救いについて行われるものです。そうでなかったら、ただの手品やマジック、説明できない出来事に終わってしまうのです。私たちも、私たちの力によらず、奇跡的に私たちの救いを経験したことがあるのです。まず、聖書は“祈っておられる間に”と示唆を与えているのです。祈りと願いのないところには奇跡はやってきません。私たちは、“しめしめ”とか“ラッキー”ということ片付けていることの中に、沢山の奇跡的な神様の救いを、実は経験しているのです。洗礼を受けようという思いを、心のうちに起させてくださったのも神様の恵みなのです。さて今朝の箇所ですが、“主イエスについてゆきたい”という弟子達の願いがあります。弟子達はどうして“栄光の姿に変えられるイエス様”を見なければならなかったのでしょうか。イエス様は、彼らに“天国の体験”をさせ、救いの確信を更に確かなものにされたかったのです。変身の術を見せたかったのでもありませんし、寝ぼけていたわけでもありません。天地創造の時から、御父とともにおいでになったイエス様の姿を弟子達は見る事ができたのでしょうか。33節に“このふたりがイエスを離れ去ろうとしたとき、ペテロは自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」とあります。紹介もされないのに、この人達がモーゼとエリヤだと分かったのでしょうか。疑いようもない確かなこととして示されたのです。私たちにも示された神の言葉が沢山あることに気付きましょう。では、この奇跡の目的は何だったのでしょうか。“栄光の中に現れて、イエスがエルサレムで遂げようとする最後のことについて話していたのである。(31節)”がその鍵です。勝利のイエス様への確信を与え、弟子達に、そして私たちに“落胆する必要はない”と語られたのです。